

関係団体の意見と対応

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	①連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量の把握に、今後とも努めてほしい。	①土砂収支について一定の精度を持ったシミュレーションを行うにあたっては、シミュレーションの入力数値およびシミュレーション結果と排砂中および洪水中の土砂モニタリングによる実測値との検証が重要であるが、現在の技術では洪水における観測が困難な状況にある。 このように土砂動態の測定技術の飛躍的な向上は難しいものではあるが、これまで実施してきた排砂直後および12月時点の2回のダム貯水池測量に、平成16年度は排砂期間直前の5月測量を加えて測量を年3回に増やすこと、また流砂量観測の取り組みを強化していくことで、土砂量の把握に努めてまいりたい。

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	②排砂と魚の生息への影響との因果関係について、今後とも調査地点、方法を含め検討してほしい。	②これまで専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、ベントス、プランクトンの調査を行ってきたところである。引き続き、排砂と魚の生息への影響との因果関係について、調査地点、方法を含め検討してまいりたい。

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	①排砂前に放流した7,630kgの湖産鮎の殆んどが海に流され再遡上しなかった。排砂後に放流した2,070kgも餌となる珪藻が流失したために痩せ細り、頼みの地鮎の成長も遅れ12節の網で捕獲できるようになったのは8月の上旬となるなどの被害が出ているのに「問題となるような現象は見られなかった」とすることは到底理解できない。問題となる現象の判断基準を明らかにされたい。	①黒部川の水質、底質、底生生物、生息魚類の調査を実施し、その結果について評価委員会から評価をいただいていた。魚類については、捕獲調査において種の変化、個体数の変化を調査し整理している。平成15年度は内水面漁業関係団体の意見を踏まえて、瀬、淵の土砂の堆積状況を把握するための調査を実施したところである。これまでの調査についても内水面漁業団体の意見を踏まえて実施してきたものであるが、今回、同団体から具体的なご指摘をいただいたことから、これを踏まえて、同団体ともよく相談しながら、専門家のご指導のもと平成16年度は鮎に関する調査の充実を図ることとしている。

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	②平成12年度は排砂せず抑制策がとられたことにより、黒部川の鮎は久し振りの豊漁となったことは周知のとおりである。16年度は排砂を見送り抑制策を実施し、排砂した年度と比較すれば排砂がもたらす被害状況ははっきり表れるし、前述の「問題となるような現象は見られなかった」という言葉は出ないものと確信する。将来に禍根を残さないため16年度は排砂を見送り、徹底した調査を実施することも選択肢の一つと思料する。 ③排砂の影響は鮎に限ったことではない。イワナ、ヤマメ、カジカ、サクラマス等を含めた魚族への影響についての調査は、方法、場所等について、現場論を尊重されたい。	②平成16年度の排砂計画については、今回の土砂管理協議会で協議・調整を図ることとなるが、排砂は毎年確実を実施することが必要であると考へており、関係団体、関係機関のご理解をいただいて排砂を実施する計画としているものである。これまでの調査についても内水面漁業関係団体の意見を踏まえて実施してきたものであるが、今回、同団体から具体的なご指摘をいただいたことから、これを踏まえて、同団体ともよく相談しながら、専門家のご指導のもと平成16年度は調査の充実を図ることとしている。 ③これまでも内水面漁協の意見を踏まえて、魚類、底生生物、付着藻類等の調査を実施してきたものである。今回、内水面漁協から具体的なご指摘をいただいたことから、これを踏まえて、同団体ともよく相談しながら、専門家のご指導のもと平成16年度は調査の充実を図ることとしている。

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	④排砂がもたらす河川状況の変化、とりわけ愛本から下流の10箇所程度で小粒径化の進行状況、平坦化の進行状況、土砂の堆積状況について排砂前、排砂後に調査を実施されたい。 ⑤評価委員会の委員並びに土砂管理協議会の委員には現地踏査をされ、排砂時の状況をよく見て頂きたい。	④これまでも内水面漁業関係団体の意見を踏まえて、土砂の堆積状況等を把握するための瀬、淵調査を実施してきたものであるが、この調査については平成15年度に実施した結果、流速が速いことや濁りにより観測が困難なことから定量的に把握することが難しかったものである。平成16年度は黒部川全川における瀬や淵の分布状況をマクロ的に把握整理するとともに、特に細かな土砂が貯まりやすいところに重点をおいて、目視や写真撮影による観察調査をおこなう予定としている。 ⑤評価委員会並びに土砂管理協議会の委員の方々には、これまでも現地の状況を見て頂いているが、今後も現地の状況を見ていただくこととしている。

【平成15年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	①排砂による農業用水の取水停止に関しては、施肥時期と重ならなかったため、問い合わせや苦情は殆ど聞こえなかった。毎年の排砂実施が地域の農業者や住民に大分浸透してきたものと思われる。	①平成15年度より取水停止時間をできるだけ短くするため、排砂実施期間中のダム運用を一部改善したところである。今後とも、検討してまいりたい。

【連携排砂実施計画及び平成16年度連携排砂計画について】

関係団体名	関係団体の意見
海面漁業関係団体	(1) 連携排砂には基本的に「絶対反対」であるが、漁場環境や漁業への影響がない方策を講じて行われる連携排砂については、やむを得ない。
内水面漁業関係団体	(1) 排砂の影響があるにも拘わらず、「問題となるような現象は見られなかった」とする概念の植え付け手法に強い憤りを覚える。生息調査は魚族の体長、体重を計測することにより、排砂がもたらす放流鮎への影響度が検証されただけではなく、鮎やイワナ、ヤマメ等の減体重化も裏付けされている。「問題となるような現象」の定義を公表されたい。 (2) 平成15年度の出し平ダムからの目標排砂量8万立方メートルに対し排砂結果は9万立方メートル。しかし、宇奈月ダムの堆砂量は47万立方メートルと発表されている。如何にも排砂量が少ないかのように聞こえるが、出し平ダムや宇奈月ダムからの通過土砂の量こそが問題であり、排砂による被害額の多寡にもつながる。シミュレーションと実測に基づく「ダム通過推定土砂量」の把握に努め公表されたい。 (3) 出し平ダムの排砂によって、黒部川の粗石が細粒子化した土砂に埋まり、鮎の餌となる藻類が着生し難くなっている。四十八ヶ瀬大橋下流に巨石を投入し、漁場の改善回復に努められたい。 (4) 評価委員並びに土砂管理協議会委員には、排砂時における河川状況を把握すべく綿密な踏査を実施され、意見や感想等も披瀝願いたい。
農業関係団体	(1) 農業用水の取水停止時間を短くしてほしい。 (2) 連携排砂に関する事前広報に努めてほしい。

【平成16年度環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見
海面漁業関係団体	(1) 特になし。
内水面漁業関係団体	(1) 特になし。
農業関係団体	(1) 特になし。